

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成19年 11月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	2276400146
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 袋井やすらぎの家
所在地 (電話番号)	静岡県袋井市木原 439-4 0538-44-6500
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年9月22日

【情報提供票より】(平成 19 年 09 月 01 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 05 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 12.0	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1・2・3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成19年 09月 01日現在)

利用者人数	20 名	男性 5 名	女性 15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田医院 ・ 消化器科医院 ・ すずき歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

袋井市内中心部に近く田園地帯にあり、静かな環境である。独自の理念“自由にありのままに 居心地のよいやすらぎの家”を掲げ、利用者に寄り添った介護を続けて5年目を迎えている。館長始め各ユニット職員の介護に向ける意欲に熱いものを感じられる。利用者が心身共に健康であり続けることへの願いが強く、急変・異常の信号をいち早く察知し、それにつき合う姿勢が徹底されている。家族からもきめ細かいケアに安心の言葉をいただいている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目、職員の意欲向上を裏切るものにするための研修計画がある。法人独自の制度として、職員が研究レポートを提出する事により、その結果が専門職としての向上意識が高まり、少しずつ成果が現れてきている。なお、理念の地域への浸透は、今後も積極的に取り組まれることが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	担当者はユニット毎の自己評価をすることにより日頃の支援の見直し・点検のチャンスだと心得ている。又外部評価の結果を受け止め、館長始め職員がサービスの質の向上に努めようとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の案内により18年11月、第1回を開催した。メンバーは家族代表・民生委員・包括担当者・ホーム職員で、ホームの状況や外部評価の報告もされている。今後は、原則2ヶ月に1回の開催に努め、地域との更なる交流の広がりに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	現在家族からの苦情・不安は報告されていないが、入居後の利用者の変化や家族の思い等を十分に受け止め、それに対する取り組みを話し合い、運営に反映出来るように検討していきたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りの手伝い・利用者と共に参加する等少しずつ地域交流が始められている。自治会への入会を生かした取り組み・地域ボランティアの受け入れなど今後に期待したい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念“自由にありのままに 居心地のよい やすらぎの家”を掲げている。地域密着型としての理念をつくりあげようと検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な環境の中で、その人らしく生活することを支えるケアが職員に浸透しつつあるが、会議・ミーティング等で理念に触れる機会は少ない。	○	理念の中身を知り、何を大切に利用者に向き合うか、日々のミーティングの中で話し合い、確認することを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、日常的なつき合い・挨拶・祭り・文化祭への参加、行事の手伝い等、地域住民として入居者と共に交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎の評価をする事により、各担当者はサービスの見直しとなっている。又、館長は外部評価の結果を全職員に伝え話し合い、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回開催は昨年11月である。地区民生委員・包括担当者・家族代表・職員参加で意見交換されている。その後の開催は未定である。	○	地域の自治会・老人会などのメンバー増員を視野に、原則2ヶ月に1回の定期的な開催を計画し、ホームの意義や役割を理解してもらえよう、積極的な働きかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	館長は市の担当者に地域密着型サービスとしてホームの実情を伝えながら相談などしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の様子や金銭管理、今後の予定等を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の不満・苦情を受ける窓口は明確化しているが、苦情はほとんど報告・記録されていない。	○	家族が意見・不満を言い出しにくいと言うことを理解し、家族会・運営推進会議などを通してホーム側から意見を聞く努力や場面づくりの検討が求められる。(家族アンケートから)そして、その意見を運営に反映していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット変えは1名を基本としている。館長は馴染みの関係づくりを重視し、職員の配置・異動への対応に配慮しながら調整に努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内規定の研修は参加必須とし、研修レポートを義務付けている。外部研修は積極的に参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	館長はホームの職員不足とローテーション調整に自ら取り組んでいる為、同業者との交流は出来ていない。	○	管理者は同業者と交流する機会を持ち、情報収集・サービスの強化向上に繋げる取り組みが必要である。運営者は地域密着型ホームとして、館長との共同認識にたち、その必要性の再認識を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	心のケアを第1に、声かけ・傾聴の中から利用者が安心するケアを探りつつ、家族と相談しながら工夫している。これは館長が最も大切にしていることで、職員と共に実行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの掲げた理念を大切に、自由にありのままに支え合う関係づくりを実行している。サービス成果(アウトカム)項目でも、その結果が示されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや日常の観察の中から、絵画・読書・テレビ・食事・一番風呂等の希望や意向を把握し、入居者本位にサービスを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見や職員の観察を反映したケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに基づく定期的なモニタリングを実施し、最低1箇所は変更箇所があり、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	従来からのかかりつけ医への受診の際は、職員の付き添い支援を徹底して行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、これまでのかかりつけ医か、ホームの提携医院をかかりつけ医にするかを、本人や家族の意向を尊重して決めている。従来からのかかりつけ医への受診の際は、職員の付き添い支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携医院との連携は取れているが、明確な方針やマニュアルは無く、職員全員に徹底されているとはいえない。	○	これから何処のホームでも直面する課題であり、法人全体として方針やマニュアルを作成し、ホーム全体に徹底されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対する言葉かけや対応には十分に注意を払い、個人情報は全て事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の介護において、できることは手を出さずに見守りを行うようにしている。できないことにも、先ず声かけや励ますよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ウィークデイの昼食・夕食は給食会社に一任しており、盛り付けの工夫や一緒に準備や後片付けは行われているが、利用者の好みを満たされているかは確認できなかった。	○	検食や聞き取りにより、利用者の満足度を調査することも必要だと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、職員の手薄さも有り、利用者一人ひとりの希望には、きめ細かな対応はできていない。	○	一人ひとりの意向を尊重し、寛いだ気分で入浴できる様、個別支援の可能性を探ったり、無理なく対応できる人員体制の確保を検討願いたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントシートや日常の観察の中から、本人のこと・声掛けすればできることを把握し、役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を行っており、重度の方には玄関前のベンチで寛いで貰っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間は鍵を掛けないことを実施しており、勤務している職員は、入居者の状態、居場所の確認しやすい場所で見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故対策マニュアルは掲示しているが、実際の訓練や非常時の近隣協力の体制作りはこれからである。	○	運営推進会議で、非常時の応援体制作りの依頼をしたり、消防署の協力を得て、災害対策訓練の実施が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝食・祝日はホームでの調理、ウィークデイの昼食・夕食は給食会社に一任しており、カロリーや栄養バランスのチェック・水分摂取量の記録は見られなかった。	○	水分量の記録や、時折管理栄養士によるカロリー・栄養バランスのチェックが望まれる。利用者の栄養量・水分摂取量は体力低下時の個別支援の基礎となる。記録を下に、スタッフ全員が情報を共有できるよう話し合いが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間・生活空間共に、3ユニットとも十分なゆとりのある空間が確保されており、落ち着いてゆったり過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約のときに、それまで本人が使用していたものを持参していただくよう依頼しており、居室には馴染みのものが置かれ、本人が居心地よく過ごせる雰囲気である。		